

社会福祉法人青空

令和5年度 事業計画

1. 事業計画

(1) 新体制の構築

新型コロナウイルスが5月をもって5類型に代わることで、今年度は様々な活動制限が緩和されることが期待される。感染予防策は行いながらも、園児や高齢者の生活が通常通り行えるようになることは保育士・介護士共にここ数年切望してきたことであり、それらの活動を法人として可能な限り後押ししていきたい。

そして、今年度より久保田力氏を新保育園長として迎えることとなった。新体制下で、昨今問題となっている保育士のあり方について見直す機会をもち、園児の最善の利益や保育理念についてお互いに意見を出し合い、園児にとっても保護者にとっても安心できる環境を創造していきたい。

昨年に引き続き、法人に関わる全ての人々が“しあわせ”を感じながら相互間のコミュニケーションを大切にする組織風土の創造を目指すと共に、職員の一人一人が自分のコミュニケーションのあり方や考え方など、自己理解を進めることで他者支援の力に繋げていきたい。

(2) 人材育成の強化

法人の優先課題として人材育成・人材教育があげられる。社会福祉法人青空の職員の一員として法令を順守し、職員の倫理規範を果たせるようサポートを行う。また職員一人ひとりが自己実現のために目標を立て、それに向かって日々の支援を行ったり、学ぶことで自己成長に繋げていけるよう、目標管理シートの作成や定期面談での対話を通じてサポートする。

指導的立場の職員は、様々な立場の職種との情報共有やコミュニケーションをとることで物事を多角的に捉える視点を持てる力をつけたい。毎月の主任会議や日々起こる事例を通じて話し合いの機会を持ち自己理解を深めていきたい。

シニア部門では昨年度までに取得したアセッサー4名により、職員の育成を目的としステップアップした評価を2名実施する。

保育部門では新人研修担当職員3名・現任研修担当職員3名・主任、リーダー研修担当職員1名の育成を目標とする。

(3) 法人内の通信・インフラの整備

ITを活用した働き方改革が推進されている。保育では園と保護者をつなぐ新しいシステムの導入により、日々の保育の様子を写真で知らせるサービスを導入した。透明性の高い保育を目指し、保護者に園での活動が伝わることを期待する。

シニア部門でも令和5年度に予定されているナースコールシステムにITを導入し、見守りや記録と連動することで職員の業務負担軽減につなげていきたい。

(4) 財政基盤の安定と透明性

昨年に引き続き、20年先を見据えた修繕費用についての積み立てができるよう、各セッションでの積み立てを実施する。

毎月会議で各セッション主任に経営状況を伝え、情報や課題を共有する。

2. 年間稼働率目標

年間受入人数上限 稼働日数/100%稼働数	保育園 362日(土:53、日:52) 33,486人	デイサービス 258日/4,644名	有料老人ホーム 366日/6,588名
稼働率目標	95%	80%以上	95%
目標受入人数年間	1440	3715	6,259
目標受入人数 月間	120	310	522
目標受入人数 1日	平日:118名、土:40名、日:20名	14.4名	17.1名

3. 第三者評価の受審

今年度、有料老人ホーム又はデイサービスセンター青空どちらかが受審